平成 31 年度使用高等学校
（第 1 部）
教科書編集趣意書

芸術（工芸Ⅰ）編

目 次

ページ

116 日文 工芸Ⅰ 1

発行者の 番号・略称	教科書の 記号･番号	教　科　書　名
１１６ 日　文	工Ⅰ　３０１	**工芸Ⅰ** 著作者　長濱雅彦　川野辺 洋

１．編集の基本方針及び編集上特に留意した点又は特色

○編集の基本方針

本教科書を編集するにあたっては,「高等学校学習指導要領第２章　第７節　芸術　第７工芸Ⅰ」の趣旨を踏まえ，生徒の健全な心身の発達，豊かな人間性の育成，個性，能力に応じた教育などに十分に配慮を払うとともに，社会情勢の変移に伴う時代の要請に応えるべく，その内容を精選，充実させることを目指しました。また全国各地での授業の実態を調査し，担当諸先生の現場での意見を伺うとともに工芸教育の専門家の識見を参考にしつつ，実際の作品制作にあたっては，その制作方法を生徒が適切に学習できるように配慮しました。

このような方向性を踏まえた上で,各教材のねらいや内容を明確かつわかりやすく示すとともに,学習内容の基本的，基礎的事項を重視することを編集上の基本方針としました。

○編集上特に留意した点又は特色

上記の基本方針を踏まえ，下記の点に留意し，教科書の編集作業を行いました。

①身の回りの自然や自然がつくりだす造形の美しさや素材のよさなど，身近な生活体験の中で感じ取ったことや考えたことなどを基に発想し，構想することができるように，幅広く多くの図版を取り入れた。
②ページの下に「調べる（工芸基礎用語)」を設置し，教科書の内容と関連する事項や興味・関心のある事柄を，自ら調べ検索できるようにし，学習をより一層深められるようにした。
③用途・目的を確かめ，材料や用具，手順や技法などを考える一連の過程を重視し，考えた内容をより正確に発表し，伝達するためのプレゼンテーション能力の育成に重点を置いた。
④資料・図版から素材や技法を知り，作者についての理解を深めるとともに，幾世代にもわたり守られ続けてきた工芸の価値を知り，そのよさや美しさを感じ取ることの大切さを本書全体，あらゆるページから読み取れるようにした。

２．教科書の編成，教科書内容の組織，配列

上記１．で示した編集の基本方針を踏まえ，教科書の編成や内容の組織，配列は下記のとおり行いました。

①工芸を学習するにあたってのオリエンテーションを巻頭に設定し，工芸を理解し，生涯を通じて工芸を愛好していく心情を育成することを考え，編集した。

②学習内容が明確になるように，５項目を設定した。「観察から表現へ」「考える」「造形の知識 - 機能・構造」「造形の知識 - 成形・色彩」の４項目では工芸の基礎的な内容をわかりやすく説明した。「つくる - 材料・技法演習」では工芸の制作にかかわる素材・材料を紹介し，実際に制作するための様々な技法を示した。
③一つの題材でＡ表現（１）身近な生活と工芸，（２）社会と工芸を選択して展開できるよう，掲載する作品に配慮し，題材の構成を工夫した。
④Ｂ鑑賞については，伝統的な工芸品や現代の工芸品，生徒作品などからよさや美しさを感じ取れるように掲載作品を選択し，構成した。また，鑑賞の能力を育成するために，生徒が工芸品について味わい，調べたり批評し合ったりする活動を通して，適切な言葉で発言・発表することをねらいとした題材を設定した。
⑤全てのページをカラー印刷とし，教科書自体の質の向上を図るとともに，生徒が工芸作品の持つ材質感や抵抗感を感じ取りながら知識の幅を広げ，発想・構想に生かせるように配慮した。
⑥掲載図版の選択や解説文に配慮し，作品の素材や技法，作者について理解を深め，幾世代にも守られてきた伝統的な工芸の価値を知り，そのよさや美しさを感じ取ることの大切さを学べるようにした。

３．教育基本法や学習指導要領との対応

教育基本法第１章第１～３条の精神に則り，生徒の健全な心身の発達，豊かな人間性の育成，個性，能力に応じた教育などに配慮し，生涯学習社会の一層の進展に対応するため，生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てられるよう，題材の設定や掲載作品の選定などに配慮しました。学習指導要領との対応については，「高等学校学習指導要領　第１章　総則」，及び「第２章　第７節　芸術　第７　工芸Ⅰ」に示された目標及び内容を基にして編集しました。

題材の設定においては，自他の存在を認め合い，ともに心豊かな人間として社会生活を営むことができるよう，身の回りの環境や福祉の視点から課題を見つけ，社会的な視点に立ってテーマを設定し，必要性を考慮して発想できる力を育てられるような内容を取り上げました。生徒間で意見を交流させている場面を紹介するなど，課題を客観的に検討し，構想を深める能力を育てることも重視しています。また，自然との共存の視点から自分たちの生活を見つめ直し，実際の素材を見たり触れたりすることでその特性を感じ取る能力を育てたり，つくるものを考えたりする内容を設定するなど，自然と生活，工芸のつながりを意識した学習ができるように配慮しています。

芸術科の目標において新たに加えられた「芸術文化についての理解を深め」ることを基にして，工芸の伝統と文化に関する鑑賞指導を重視しました。長い伝統に裏付けられ，現在も脈々と受け継がれている我が国のものづくりの技術と精神を誇りを持って受け止め，伝統と文化の継承と創造への関心を高めるとともに，国際社会に生きる日本人として，異なる文化や歴史に敬意を払い，尊重する態度を養えるよう，題材の設定や掲載図版の選定に留意し，編集しました。